

平成25年度 兵庫県立人と自然の博物館協議会

日時 平成26年3月7日(金) 14:00~16:00

場所 県立人と自然の博物館 大セミナー室

1 開 会

2 館長挨拶

3 議 事

(1) 報告事項

博物館の活動状況について

ひとはく将来ビジョンについて

ゆめはくの運用について

篠山層群の化石とその活用について

(2) 施設見学

(3) 質疑・意見

・博物館

20周年記念事業では、みなさまにたいへんお世話になり、ひとはくも21年目に入った。ここに来てようやく、日本の博物館の一員になれた気がする。成人したミュージアムとして、これからどういう中身にしていくのか、どう成熟するのがいいのかも含めて、忌憚のないご意見を伺いたい。

(博物館による事業報告)

・委員

大学の教員だが、子育てをする父親の代表として参加させていただいた。

田原次長のパートナー探しの重要性についてのお話を、興味深くお聞きした。

イギリスにいた時に、当時1歳半から2歳だった娘と、毎日、ブリストル博物館で過ごすことができ、大変助かった。ひとはくにも子どもづれで来て見させていただいて、英国との比較で感じたことを2つ提案させていただきたい。

1 カフェが無い。田原次長の新館構想にはカフェがあがっているが、これはとても重要なこと。小さい子連れが博物館で1日過ごそうと思うと、お茶と軽い食事ができる空間が重要。また、バギーを置くスペースも十分にほしい。

2 ひとはくでは、入館者の年齢層として、子ども、中高年層は多く見かけるが、大

学生から 30 代の独身層がほとんどいない。博物館を「出会いの場」にしてはどうか？ 所属する神戸学院大学は 60 億円をかけて、ポートアイランドに新キャンパスをつくったが、結婚式にも利用されている。ひとはくで結婚式は？ そうすれば、20 代～30 代の層が埋まるのではないか？

#### ・博物館

カフェは、ひとはく将来ビジョンの中に盛り込んでおり、新館の重要な要素ととらえている。いろんな人が集まる結節点のような場所にしていきたい。

なお、以前は、喫茶軽食コーナーが営業していたが、採算上の問題で維持できなかったという経緯がある。理想と現実をつなぐにはどうしたらいいかを考えており、これまで飲食スペースとしてとらえていたが、それを超える空間として検討したい。そういう意味でサロンと名付け、平日の昼間などは子ども連れのお母さんの集う場になっている。

バギースペースについては、ユニバーサル化に取り組む中で検討していきたい。

来館者の年齢層については、博物館でも問題意識をもっている。かつては幼児についての取り組みは薄かったが、近年充実してきた。

20 代～30 代の客層の現状についてはご指摘の通り。

1 つ 1 つ、積み重ねていきたい

#### ・委員

少子化対策として、県では「このとり政策」を実施している。ひとはくで結婚式との意見があったが、博物館を出会いの場という提案には大賛成だ。ぜひ博物館で、お見合いを。

カフェは、博物館の真ん中であって、周りの展示と自由に行き来できると、より楽しめる。カフェの空間に無料で入ることができれば、街とのコラボも可能で。ショッピングの延長線上に博物館に行くというのもあるだろう。

カフェというと、大阪大学の鷺田教授のグループといっしょに、「哲学カフェ」という取り組みをしている。街角のカフェで哲学を語り合っている。街角で、お茶をしながら博物館を語る場、キャラバンの中でお茶をして語る場がよいのでは？

また、縦割り組織から、セミラティス型のネットワークへというお話しは、次世代のあるべき姿を感じた。

#### ・委員

予算が厳しい中、よく頑張っているなと思う。

提案だが、ひとはくは、今後、「ゆめはく」と「収蔵庫」をセットで考えるとよい。

ネット販売の拡大で、企業は物流の拠点を探している。ロジスティクスニーズは高い。ひとはくは、主要な高速道路の交差の近くに位置し、流通拠点という意味で絶好のロケーションにある。ゆめはくは、実績も人気もある。地の利を活かして、さらに 1、2 台導入してもいいのでは？

ひとはくの次のビジョンは、「行動する博物館」ではないか。「新館」に必要なのは、

そのために必要な収蔵庫や恐竜コンテンツではないか。行動に必要な展示品やパッケージを強化する、そのためには、ロジスティクスの核になる収蔵庫が重要であると考えます。

一方、キャラバン・共催事業が増加しているのに対し、本館への入館者数は増えていない。キャラバンに来た人を本館に行きたいと思わせる、「ゆめはく」だけで満足させない仕掛けも重要。恐竜骨格模型はその象徴として使えるだろう。

#### ・委員

理科離れと言われているように、理科を好きになる小中学生が少ない。授業を見てみたら、プリントばかりで面白い授業がない。受験のための勉強だけではなく、博物館が理科を好きになる場になれば。

アウトリーチ、連携事業の中で、ゲストティーチャーのような、専門家が来て子どもの興味を高めることがあればありがたい。実験とか丹波竜の話聞かせるとか。「魅せる収蔵庫」で、ある程度関心をもった子ども、興味ある子どもたちを育てて、発掘から復元まで見ると、より興味を持てるだろう。

教科の研究組織で授業の研究をしているが、そことタイアップして連携の試みをしてほしい。

#### ・委員

自然学校で、4泊5日し、最終日に丹波竜の里に行くが、ただ連れて行っただけのことが多く、子どもは、驚き、喜び、感動をあまり感じていない。

恐竜を始め、化石全体の中での位置づけをひとはくで勉強してから現場に行くような取り組みができないか。来年度モデル授業をしてやってほしい。

#### ・博物館

学校との連携については、重要だと認識している。

学校と博物館では、「文化」が違うが、お互いに相手のことを知ってから連携を進めるということで、続けたい。例えば、現在、伊丹市教育委員会と博物館とで連携協定を締結し、さまざまな取り組みを試行している。さらに深めていきたい。

三田市についても、市がひとはくで開催しているサイエンスフェスティバルは、第1回から協力させていただいている。

#### ・委員

毎年、ひとはくはよくがんばっていると思う。

組織の形として、「セミラティス型」は、おもしろい。

開館して20年、実際にひとはくで学んだ子どもたちが（大阪府立）大学に入ってくるようになった。その子が親になって、またひとはくに子どもを連れてくるように、人を育てることが重要。大学、小中高と連携がさらに必要となる。

ひとはくは20歳をすぎて「社会化」に向けた時代になるのでは。人数は少ないかもしれないが、強いつながりを持つ人を育てることは、非常に重要。そのためにも、拠点施

設の魅力化をさらに進めてほしい。新館構想に期待している。

・委員

拠点の魅力向上が必要だ。

ひとはくが、今後 40 年に向かって大きくなるためには、さらに大きくピラミッドの底辺を広げる必要がある。拠点の魅力化、新館に向けて頑張ってください。

・委員

研究者の立場から話をさせていただきます。丹波竜については、論文も出来ているのですが、研究をもとに外部資金獲得につなげることを考えていますか？

・博物館

研究費としては科研費の獲得が考えられる。

商業ベースの資金獲得も可能性はあると思う。

・委員

博物館で婚活を！

カフェの動線が大事。博物館の入り口においてほしい。カフェでお茶をしてから、今日は博物館に行こうかと考えるような。ブリストル博物館ではカフェの中に収蔵品が置いてあった。

ビジター数を見ていて意外と恐竜関連が少ないのに驚いた。ジュラシックパークやモンハンなど恐竜は、とても強いアピール力を持っているはずなのに、集客に結びついていないのはもったいないのでは。

アピールするやり方が大事で、子どもは、楽しいか怖い！が好き。

・委員

セミナーや体験型プログラムがとても充実している。

先日は、3歳児向けのセミナーがあったと聞き、きめ細かい対応がされていると感じる。でも、展示内容は、やはり、小中学生には難しい気がする。新館の時には小中学生にも分かりやすい展示になるように、これからの研究開発に期待したい。

・委員

ゆめはくなど、がんばっていて大変だなと思う。これ以上何かして欲しいとはとても言えない状況が・・・。新館構想はどんな状況ですか？

恐竜の復元した骨格を見せるのはいいと思う。今は置く場所がないようだが、現状で出来ることとして、3Fのアースシアターで、迫力ある恐竜の映像を流すなどは？ソフト展開も可能。

- ・博物館

基本構想、基本計画で新館のコンセプトは出したが、残念ながら、その後は進んでいない。

新しい空間、人々が出会い集う場所の確保という意味では、今の施設ではつらい面がある。また、必ずしも展示そのものだけを新しくすることではなく、自由度のある場所にといい思いから、新しい物を作る方がいいと考えるに至った。

そういった意味でアイデアを出して整備したのが、「魅せる収蔵庫」。

アースシアターの利用なども含め、まずは出来ることから。参画を得ながら、取り組んでいく。

- ・委員

人も予算も無く、博物館の運営は厳しい状況にある中、外部と連携して進めていくという方向は、とても理にかなっている。

いろいろな問題があると思うが、乗り切ってほしい。

- ・博物館

あまり触れられなかったが、ここ2、3年、職員（研究員）の中から学会賞を受賞したり学位を取ったり、研究成果が出ている。博物館を舞台にした地域密着の活動が認められたと自負している。

今年度3名の転出があり、人事活性化が進んでいる。ただ、補充が難しい。ぜひ応援していただきたい。

展示については、20年前の開館当時とほとんど同じ内容の部分が多く、大規模な展示替えができていない。そんな中で、小学生から幼児までの対応は進めてきたが、まだ0歳から2歳児の対応はできていないと思う。ボストンでは、乳幼児に対する展示の対策は何もないが、その分、スタッフが何人も寄ってきて構ってくれた。マンパワーでフォローしている。

皆さんにエールをいただいた。ゆめはくも、ぜひ増やしてもらい、恐竜の展示についても、中期目標ではなく短期目標としてやっていきたい。